

【令和5年度授業改善推進プラン 国語】

板橋区立高島第三小学校

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none">・朝のほっとタイムや図書の日など、自分で本を選び読書に親しんでいる児童が多い。・読書する時間や量に個人差がついている。・話し手が伝えたいことと自分が聞く必要のあることの両面を意識することで、必要なことを落とさずに聞く力は身に付いていると考えられる。・考えを発表することに意欲的な児童が多い。また、分かりやすく相手に伝えることについては、多くの児童が身に付けているが、苦手とする児童もいる。・物語文の読み取りについては、叙述をもとに登場人物の心情を読み取ることが不十分な児童もいる。・説明文の読み取りについては、大切な言葉や叙述に着目して考えられるように必要な要素を理解し、活用する力が不十分な児童もいる。・語彙が少なく、表現に乏しい児童がいる。また、書かれている言葉の意味が分からず、読み取ることができない児童もいる。・文章を読んで理解したことについて、考えてまとめることを苦手とする児童がいる。・経験したことを伝える文章を書くことについては、多くの児童が身に付けて書いている。詳しく書いたり、表記を間違えずに正しく書いたりすることが不十分な児童もいる。・文と文のつながりや文章の構成を誤って作文する姿が見られる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none">・漢字については、読み先行ではなく、書き中心の学習が行われている。・グループ活動や、交流の時間が少なかった。話したり、聞いたりして意見を交流しながら深めていくことが難しかった。・登場人物の心情をとらえるために必要な要素を理解し、活用する力を身に付けさせる必要がある。・文章の読み取りの際に、構成や接続語の役割や語彙の意味について考える時間をさらに設ける必要がある。・文章の読み取りの際に、文章を要約したり、自分の考えを伝える文章を書いたりといった力を身に付けさせる必要がある。

■授業改善に向けての
具体的な方策

- ・ ひらがな、カタカナ、漢字の学習では、学習した漢字を使用した文章を作り、読むなどの学習活動を取り入れて行く。書く機会も増やしていき、2学年間の計画を立て確実に書けるようにする。
- ・ 語彙の意味は、国語辞典で調べたり、全体で確認したりする。
- ・ 分かりやすく伝える力、聞く力を伸ばすために交流の時間を多く設け、自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりする。
- ・ 読むことについては、本から情報を得て分かったことなどを説明する活動を大切にしていく。また、教科書をしっかりと読み、大切な言葉や叙述に着目して考えられるように、必要な要素を理解し活用する力を身に付ける指導をしていく。
- ・ 文章の構造と内容を把握したり、語や文及び段落の続き方やつながりを考えたりしながら文章を書くことができるよう、指導をしていく。
- ・ 児童の関心や意欲をより高めるとともに、一人一人に応じた学習課題に取り組めるよう、タブレット等のICT機器を活用していく。